

保育園実習を終えて

湯本 晃子

私は2週間のうち、1週目は5歳児、4歳児、3歳児、2歳児と入らせていただき、二週目は3歳児に入らせていただきました。

1週目は入らせていただいたクラスの特徴や雰囲気を知り、子どもたちの年齢に適した遊びがあると感じました。また保育者の子どもに対するかかわりも違っていました。5歳児は、自分たちでチームをつくりドッジボールをして遊ぶ子や、積み木で家を作る子など、自分たちで考えて遊ぶ姿が見られました。保育者は遠くから見守ったり、近くに来て、子どもたちの造ったものを褒めたりし、あまり保育者から教えるということはありませんでした。そして季節の遊びとして、コマ回しが流行していました。どの遊びも男女関係なく遊ぶことや、やり方を教え合っている姿などが見られました。保育者も一緒になってコマを回すことや、うまく回らないときには、自分もわからないふりをし、声をかけず、子どもたちに考えさせていました。4歳児は、個々に縄跳びの練習をし、たくさん跳ぶことや数を数えることを楽しんでいました。保育者も一緒に数を数え、子どもたちに数の数え方を教えていました。またカルタ遊びを毎日のように行っていて、カルタが何枚とれるかを競い合うことや、平仮名を読む楽しさを感じている様子でした。カルタのとれた枚数により喧嘩になることもありましたが、保育者はお互いの意見を聞き、子どもたちにも相手はこのような気持ちだったということ伝えることで、解決することができていました。3歳児は、保育者から頼まれた手伝いをとても嬉しそうにしていました。保育者が、早く身支度のできた子に手伝いを頼むことで、子どもたちの身支度を急ぐ姿が見られました。そのほかにパズルやままごと、ブロック、絵本を読んでもらうこと、歌を歌うことなどがとても好きな様子でした。そしてスキップの練習を、教室から遊戯室までの廊下を利用して毎日行っていました。毎日の積み重ねで、徐々にスキップのできる子が増えていきました。2歳児では、大きなブロックを使ったり、ままごとをしたり、自分のやりたい遊びをしていました。何をしてもすぐに飽きてしまう子や、自分の思いが相手に伝わらず泣いてしまう子も多かったです。そのような子に対し保育者は、落ち着くまで隣にいたり、違う遊びを見つけて一緒に遊んでいました。

2週目は3歳児に入らせていただき、初めて朝の受け入れから、午後のお昼寝までの半日責任実習と、お昼寝から降園までの半日責任実習を2日間に分けて体験させていただきました。そこでクラスを任されるという重要性や責任感を強く感じました。その中でも私は、子どもの体調を把握しておくことが大切だと感じました。登園してきた時の、子どもの表情や様子を確認することや、保護者から渡された子どもの薬などを忘れないように、子どもの手の届かない、自分のわかるところに置くことも大切だと思いました。子どもの体調管理に気を付けていかなければいけないということを経験し、子どもの命を預かっているということを強く感じました。また降園の時には、一日の子どもの様子を保護者に伝える

ということが重要なので、気になったことはメモなどし、忘れないようにすることが大切だと感じました。一日の様子を伝えることで、次の日からも安心して子どもを預けることができると感じ、保護者とのかかわりも大切だと思いました。

また一日の流れなど、私は保育者の行っていることと同じようにやれば良いと思い、一つ一つの活動に目的も持たず、淡々と計画通りに行いました。保育者と同じことをしてもうまくいくわけがなく、半日責任実習が終わってから、何のためにあの活動をしたのだろうか。行った活動に意味はあったのだろうか。と考えました。自分の考えた活動や、やってみたいという活動をしなかったために、子どもたちにとっても自分自身にとっても、ためにならない活動になってしまったと感じました。保育者はどんな活動に対しても、子どもにこうなってほしいという思いや願いを持っているということ強く感じました。今後、一日責任実習などをさせていただくときには、きちんと自分のやってみたい活動を考えることが大切だと感じました。そして今回の実習を通して、年齢に適した子どもへのかかわりと、責任実習を任されるという責任感を感じることができました。